

あらわれた文淵 1P 沼田船津家第七代=船津久五郎(文淵)に連なる人々(一) 2P
特別展図録とグッズのお知らせ 3P 博物館の桜まつり 4P

足立史談

第577号

2016年3月15日

足立区教育委員会

足立史談編集局

足立区立郷土博物館内

〒120-0001

東京都足立区大谷田5-20-1

TEL 03-3620-9393

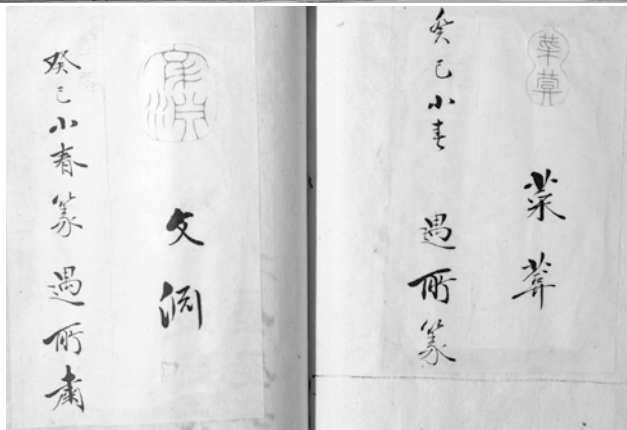
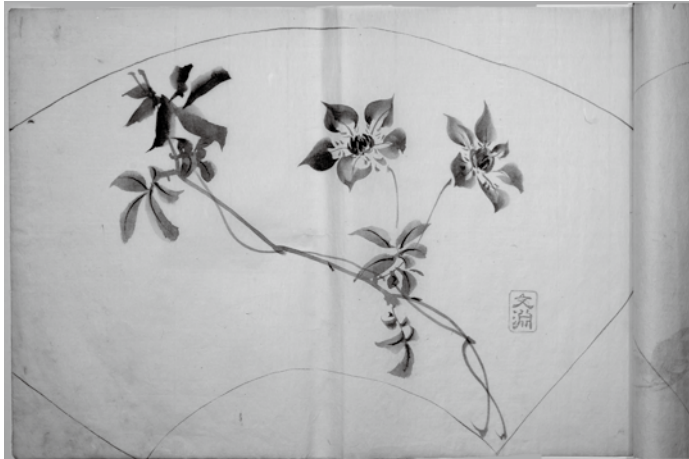
FAX 03-5697-6562

(27-308)

あらわれた文淵

文化遺産調査特別展「美と知性の宝庫 足立」より

郷土博物館

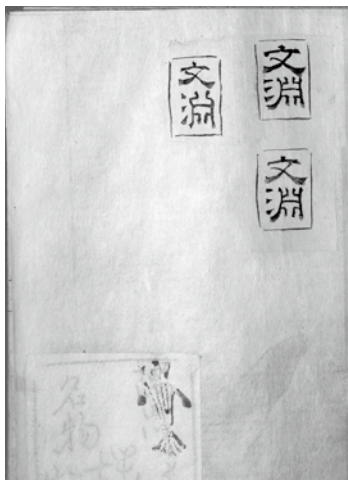


【写真1】画本「菜菔模本」(文政一三年)中の扇面図「鉄線」文淵の落款がある。
【写真2】「縮画帖(二)」の頁に貼り込まれた「雅号と落款の貼紙」天保四年
同じ帖に、天保三年の文淵の署名落款も同様にある。

開催中の特別展は、船津文淵の遺した資料の研究成果により、足立の芸術文化を再編成するものです。船津文淵については、前号で紹介していますが、その雅号「文淵」を表す資料をご紹介します。

船津久五郎は、文化三(一八〇六)年に生まれ、文政九(一八二六)年、谷文晁から瀏江領とよばれたこの地域にちなんだ名と思われる「文淵」の雅号を授けられています。【前号写真参照】さらに二年後「菜菔」(さいあん)の雅号も頂いています。

自身の描いた絵や画帳には、文淵、菜菔といった署名や落款が使われています。文淵の「淵」は、文晁の雅号状では「瀏」が使われていますが、久五郎は、別字である「淵」の文字も用いています。

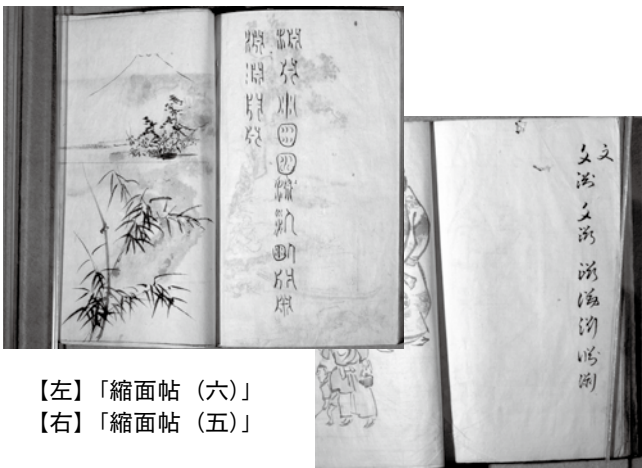


【写真3】「文淵」を描いた貼紙。(縮画帖(三)部分)落款の案を示したのか?一番左側のは、「写真1」で使用されている【写真4】「文淵」の書き方について、さまざまなくすしの形を試したと見られるあと。(縮画帖(五)・縮画帖(六)部分)

「縮画帖」とよばれる画の修練のために、文晁の作品などを写した帳面が六冊残されています。成立年代やその順番は不明ですが、「縮画帖」のなかには、自身の雅号のくすしや、落款についてのメモや貼り紙の頁もあり、久五郎が頂いた雅号をどのように表現するのか、いろいろと考えていた様子がうかがえます。

画に添える署名や落款にも、絵師として、表現者としてのこだわりがあるともいえますが、どんなサインが格好良いかを考えていたのかと思うと、私たちにも身近に感じられます。

文淵の日常について記した日記については次号で紹介いたします。



【左】「縮画帖(六)」

【右】「縮画帖(五)」

沼田船津家第七代(文測)に連なる人々(二)

伊澤隆男

この度、足立区立郷土博物館において「美と知性の宝庫 足立」と題して谷文晁一門の絵師であった沼田船津家第七代の船津久五郎(文測)の新発見の資料等が企画展示される。このことで、船津久五郎について、また久五郎が当主であった沼田船津家や本家の日光御成道鳩ヶ谷宿本陣船戸家の人々、沼田の船津家と同様の鳩ヶ谷宿本陣船戸家の分家の船津家の人々やその関連、また出来事などを紹介してみたい。

沼田とは、現在の足立区江北あたりを示す地名である。足立区の船津家は、江戸時代の上沼田村にあったことにより沼田の船津家とよばれ、それに対して鳩ヶ谷(現埼玉県川口市)の船津家は、「里」(さと)として呼び分けていた。また、鳩ヶ谷宿本陣の船戸家は、「ふなと」と読む。なお、筆者は、沼田船津家・里船津家の縁戚であり、長年船津家・船津家の歴史的な研究を続けている。

船津家の系譜について

今回、船津久五郎についてご紹介する原資料は、沼田船津家第九代の船津静作の長男として、明治十一年一月七日に沼田に生まれ、後に鳩ヶ谷宿本陣船戸家の分家の一つである

里船津本家の九代となった船津輪助がまとめた、『船津家系図稿』と『船津家系譜』の二冊による。

船津輪助は、この資料をまとめるにあたって、『船津家系譜』の表紙裏に次のように記載している。

「総テ此譜ニハ公簿ニタヨラズ専ラ眞實ヲ記載スルモノ也 古文書、過去帳、位牌、墓石等ヲ照合シ此ノ譜ヲ作ル 輪助記」

この二冊の船戸家及び船津家(船津家)に関する系譜には、日光御成道鳩ヶ谷宿本陣船戸家十五代を始め、分家の里船津本家九代、沼田船津家十代、里船津本家の分家の通称隠居家といわれる船津家六代、さらに里船津本家の使用人が船津姓を名乗ることを許された通称新家船津家六代などの代々の当主及び妻子、嫁入り先、婿入り先、離縁や出奔、駆落ち、心中など正規の家伝の系図などに見られない事柄などが記されている。

この二冊の系譜は、作成した輪助が下書きとして作成した「稿」と、きちんと清書してある「系譜」という関係にある。輪助は、この二冊を他人どころか家族にも見せる気はなかつたらしく、輪助が亡くなった後

は、妻の「よし」も知らず、おそらく輪助の長男の喜助が、輪助の生前の蔵書等にほとんど手を付けないでいたようなので、輪助の子ども達の間にも触れなかつたのではないかと考えられる。ただ、喜助が亡くなった後には、輪助の四男の故船津富彦氏(東洋大学教授、中国文学専攻)や故小川博氏(早大高等学院教諭、民俗学専攻)などの人たちが見られたかもしれないが、あえて発表するまでもなかつたと考えておられたものと推察する。

筆者は、以前に鳩ヶ谷宿本陣の系譜や、里船津本家の系譜を川口市郷土史会の機関誌「川口史林」に発表している。この系譜について公にするのは初めてではないが、今般に足立区立郷土博物館が展覧会を開催するに当たり、船津家(船津家)に対する理解を深めていただくために発表させていただくこととした。

船津家の船の字について

ここで、船津家の船津(ふなつ)という字について、「船津、船津、舟津、船戸、舟戸」といういろいろな使方をされているので整理すると、輪助は、「系譜」の冒頭に、「鳩ヶ谷町名主石井玄蕃ト申候者相果其跡へ、入智二、舟越大学ト申ス浪人甲州ヨリ被参候由。大学苗字ヲカヘ舟津ト申候。舟越ハ、フナツトヨムニ非ザルカ」と書いてあり、本姓は舟

津で、家によって変えたものと思われる。沼田及び隠居屋の船津家は船の字を使い、里の船津家は、船となっている。輪助は、沼田にいた時のハシコは船津輪助で、里の船津家では船津輪助となっている。本稿では沼田は船の字を使い、里は船の字を使うことにする。

鳩ヶ谷宿本陣から沼田へ分家

鳩ヶ谷の名主石井玄蕃の途絶えた跡の入智となった船戸大学を始祖とし、二代の船戸織部のときに、会津へ向かう徳川家康の軍勢が、当時岩瀬から川口、鳩ヶ谷を経由して北へ向かう鎌倉街道中ツ道を通って、小山から反転し、関ヶ原で勝利し、徳川氏の天下となった縁起の良い街道ということ、三代目の久兵衛のときに日光御成道鳩ヶ谷宿本陣をうけたまわり、問屋を兼帯することになった。本陣となつてからは、近くの赤山に陣屋を構えていた関東郡代の伊奈氏とも密接な関係をもつた。

四代目久兵衛の三男、徳右衛門(初名源五兵衛)が寛文十一年(一六七二)二十五歳で沼田船津家の初代となった。初代徳右衛門は鳩ヶ谷宿本陣船戸家の力と関東郡代伊奈氏の後押しもあって荒地であった葦原を開墾し、凡そ三十町歩の土地を所有し、二十六歳で沼田の名主となった。

沼田の船津家は代々名主といわれるが、船津家で名主となったのは、

初代の徳右衛門だけである。これも
輪助の調査によるが、寛文から元
禄(一六七一〜一七〇三)にかけて
の沼田の名主は徳右衛門、享保年間
(一七一六〜一七三五)は名主李右
衛門、寛延四年(一七五二)名主平
右衛門、宝暦六年(一七五六)名主
庄右衛門(以上は輪助が古文書によ
り確認している)。

宝暦以後明治まで名主庄右衛門
即ち堀内家である。船津家初代徳
右衛門はよそから来た人であるが、
二十六歳のときから名主を務めてい
る。二代目以降の船津家の当主は名
主は務めていない。大地主、大百姓
ということ、役は務めているかも
しれないが、名主となった人は初代
だけである。

初代徳右衛門は、正徳三年(一七
一三)四月十一日没、行年六十七歳。
逆算すると生まれは正保三年(一六
四六)となる。

ここで、沼田船津家初代の船津徳
右衛門弘重について、妻子を紹介し
てみたい

初代 船津徳右衛門弘重

初名 源五兵衛 寛文より元禄の沼
田の名主。沼田船津家は代々徳右衛
門と称することとなった。正徳三
年(一七一三)四月十一日没。行年
六十七歳。輪岸宗運居士
妻 明窓良光禅定尼 天和二年
(一六八二)七月没

子 一、初子 吉川村戸張五郎左衛
門妻 宝暦七年(一七五七)五月没
子 二、徳兵衛 早世

子 三、女子 谷塚村折戸小左衛門
妻 享保六年(一七二六)七月没

子 四、徳右衛門重平 初名勘六沼
田船津家第二代

子 五、松子 久保田庄兵衛妻

子 六、女子 山本道達妻

子 七、女子 会田五郎兵衛妻

子 八、女子 山田喜右衛門妻

子 九、女子 奈良土佐妻

妾 法岸栄照禅尼 伊興村の人。

宝暦四年(一七五四)十一月五日没

行年八十七歳

妾とはいうが、初代の妻が亡く

なった時、初代は三十六歳、この女

性は十五歳であるが、「身分低き故

妾となしたるべし、後妻と云うべき

なり」と書いてある。

妾の子 源吾 舍人町へ分地

くめ

新六

きん 茂兵衛妻

初代は妻と妾に男子四名、女子九

名があった。

二代 船津徳右衛門重平(初名勘六)

初代の次男だが正妻の生んだ男子と

して承らえた男子は重平のみ。

延享元年(一七四四)五月二十五

日没 行年五十七歳

初代二代と段々地所を増やして

いった。二代の時大水があり、それ

らの為二百両ほどの借財があったが
三代目徳右衛門が土地を売って借金
を返した。(一反七両位の相場の時
代・二百両で三町歩弱)

妻 即身妙覚大姉 下谷廣小路塩

澤太十郎娘 天明四年閏一月

四日没

この人には子なし

(次号へつづく)

川口市郷土史学会員

◆◆◆特別展図録と博物館グッズのご案内◆◆◆

特別展の内容を詳しく紹介した図
録を頒布します。

A4判・オールカラー・一二二頁、

頒布価格 六〇〇円。

展示会出展の約八〇点の資料を掲

載。それぞれの展示資料について詳

しく解説する解説編があります。巻

頭では、文化遺産調査を担当し全体

の構成を監修された武蔵野美術大学

教授玉蟲敏子先生を初め、鶴岡明美
先生(お茶の水女子大学非常勤講
師)、真田尊光先生(川村学園女子
大学准教授)の足立の地域文化につ

いての論考を掲載。この地域で初め
て明らかになった美術史的にも注目
されるその特徴が述べられています。

そのほか、郷土史的な視点を交え
た館職員による論考、巻末には年表

や地図などを参考資料に加え、わか
りやすく読み応えも充分な図録です。

ご観覧の際には、図録もお手にとつ
てお目通し下さい。そして、ぜひご

自宅でゆっくりと「美の宝庫」をお
開き下さることをおすすめします。

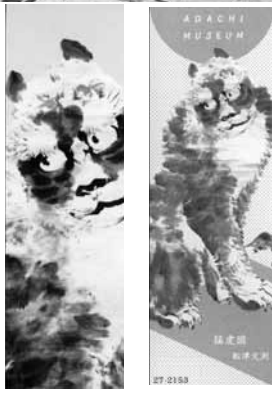
郷土博物館で図録ご購入の方に、
文渕筆「猛虎図」をデザインしたか

わいい? 「とらぶん」シオリを差し
上げます。文渕の墨筆によるモフモ

フ感をお楽しみ下さい。

もっと、モフモフしたい方には、

オリジナルクリアファイルをお勧め
します。



「猛虎図」シオリ(表・裏)

「美と知性の宝庫 足立」開催を記念して「猛虎図」A5判クリアファイルと、建部巢兆「盆踊り図」の筆箋を作りました。

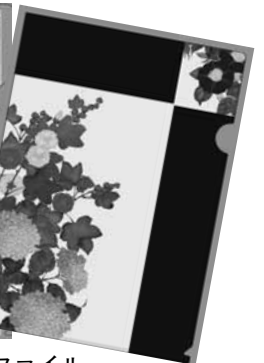


クリアファイル 100円



一筆箋 300円

そのほか、郷土博物館の收藏資料からデザインしたA4判・A5判クリアファイル・シール・メモ帖・一〇種類のポストカードを作成しました。なかでも、狩野常信「百獣図」からセレクトした動物のシール【写真下】は、唐獅子などの霊獣も含まれとっても印象的です。



村越向栄「四季草花人物図屏風」・歌川広重「浅草田圃西の町詣」のファイル「東海道五十六区おぼくし」のA5判ファイルとシール

(クリアファイルはすべて100円・シール200円・くるみメモ100円・ポストカードはすべて1枚50円)

博物館の桜まつり

3月26日～4月4日
月曜開館・無料公開

桜並木に彩られる博物館にお運び下さい。4月2日・3日は、花めぐりバスの運行もあり、区内各地の花とイベントをお楽しみいただけます。

4月2日

■お茶会 10時30分～15時

小林仙利社中

・10時から先着百名に整理券配布。

(時間指定制)

■お囃子の演奏 11時～正午

押部文化保存会はやし連

五兵衛葛西囃子保存会

高野箕濃が谷囃子保存会

■中庭お楽しみ出店

10時～15時(売り切れ次第終了)

・友愛会・軽食(おにぎり・お茶・

アイスクリームなど)

・葦の会・お花の苗

・綾瀬スマイル工房・かりんとう

4月2日・3日

10時～15時

■協働グループの展示・刊行物頒布

足立史談会・安藤昌益と千住宿の

関係を調べる会・江北の歴史を伝える会

4月3日

■お茶会 10時30分～15時

小林仙利社中

・10時から先着百名に整理券配布。

(時間指定制)

■健康銭太鼓 10時～11時

山崎節子社中

(NPO東京芸術着物協会)

■和太鼓の演奏 11時～正午

平成六起太鼓

■協働グループ講演会

13時～14時

「学童疎開を語る会」

■中庭お楽しみ出店

10時～15時(売り切れ次第終了)

・友愛会・軽食(おにぎり・お茶・

アイスクリームなど)

・葦の会・お花の苗

協働グループ紹介展

4月23日～4月3日

博物館と協働して、調査研究、教育普及事業を行うグループの活動と

その成果をご紹介します。

博物館の桜まつり協力 大谷田五丁目町会